

作成日 2017年5月25日
改訂日

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	0.2%塩化アンモニウム溶液
会社名	武藤化学株式会社
住所	東京都文京区本郷2-10-7
電話番号	03-3814-5511
FAX番号	03-3815-4832
メールアドレス	
推奨用途及び使用上の制限	検査・研究用

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
健康に対する有害性

急性毒性(経口)	分類対象外
急性毒性(経皮)	区分4
急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺	分類対象外
呼吸器感作性	区分1
皮膚感作性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分外
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分2(神経系)
環境に対する有害性	区分2(全身毒性)
水生環境急性有害性	区分1
水生環境慢性有害性	区分1

ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
飲み込むと有害
重篤な眼の損傷
長期又は反復ばく露による神経系の障害のおそれ
水生生物に有害

注意書き

【安全対策】
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。
適切な保護手袋、保護衣を着用すること。
適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。
適切な個人用保護具を使用すること。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
 吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 漏出物は回収すること。
【保管】
 暗所保存
【廃棄】
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国・地域情報

3. 組成及び成分情報

化学物質

化学名又は一般名	塩化アンモニウム	水
分子式(分子量)	ClH ₄ N	
CAS番号	12125-02-9	
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	(1)-218	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし	
濃度又は濃度範囲	0.2%	99.8%

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

直ちに医師に連絡すること。
 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。
 皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

目に入った場合

直ちに医師に連絡すること。
 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。
 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 直ちに医師に連絡すること。

最も重要な兆候及び症状

データなし

応急措置をする者の保護

データなし

医師に対する特別注意事項

データなし

5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

特有の危険有害性		不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法 消火を行う者の保護		危険でなければ火災区域から容器を移動する。 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離す 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 環境中に放出してはならない。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
環境に対する注意事項 回収・中和 封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策		
7. 取扱い及び保管上の注意	取扱い 技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
	安全取扱い注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。 飲み込まないこと。 皮膚と接触しないこと。 眼に入れないこと。
保管	接触回避 技術的対策 混触危険物質 保管条件	『10. 安定性及び反応性』を参照。 特別に技術的対策は必要としない。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 特に技術的対策は必要としない。 酸化剤から離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 直射日光が当たらない場所に保管
	容器包装材料	データなし
8. ばく露防止及び保護措置	管理濃度 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	未設定
	日本産衛学会(2007年版) ACGIH(2007年版)	未設定 ACGIH(1970) TWA: 10mg/m ³
設備対策		この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。
保護具	呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
衛生対策	眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
		この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	液体
形状	無色
色	無臭
臭い	酸性
pH	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
自然発火温度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	不燃性 : ATSDR (2008)
爆発範囲	データなし
蒸気圧	1mmHg(100°C) : ATSDR (2008)
蒸気密度	4.5 : PATTY (5th,2001)
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
比重(密度)	データなし
溶解度	水 : 28.3g/100g (25°C) エタノールに溶けにくい
オクタノール・水分配係数	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率(導電率)	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	水、湿気と激しく反応し、塩化水素を生成する。
避けるべき条件	水、湿気
混触危険物質	水
危険有害な分解生成物	塩化水素

11. 有害性情報

急性毒性 経口	rat LD50=1410～1658 mg/kg (SIDS, 2009)
経皮	データなし
吸入	吸入(ガス) : GHS定義における固体である。 吸入(蒸気) : データなし 吸入(粉じん) : データなし
皮膚腐食性・刺激性	ラビット(Draize試験_GLP準拠) : 個体毎の平均スコア値は何れも1以下である(SIDS, 2009)。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ラビット : 軽度の刺激性 (ACGIH 7th, 2001) ラビット : 発赤、浮腫ないし角膜混濁等の変化は8日以内に跡形も無い(SIDS, 2009)。
呼吸器感作性又は皮膚感作性 生殖細胞変異原性	モルモット(maximization test: GLP準拠) : 感作性なし(SIDS, 腹腔内投与によるマウスの骨髄細胞を用いた小核試験(体細胞を用いるin vivo変異原性試験) : 陰性(SIDS, 2009)
発がん性 生殖毒性	データなし データなし
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	神経系 (SIDS, 2009) 特定標的臓器毒性(単回ばく露)神経系 (SIDS, 2009)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	全身毒性 (SIDS, 2009) 吸引性呼吸器有害性データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし
12. 環境影響情報	
水生環境急性有害性	魚類(ブルーギル)LC50=74.2mg/L/96 hr(ECETOC TR91, 2003)
水生環境慢性有害性	甲殻類(オオミジンコ) NOEC = 14.6 mg/L/21day (SIDS, 2006) 各種水生生物に対する慢性毒性試験結果については、別添資料を参照してください。(SIDS, 2006)
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
汚染容器及び包装	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従う 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制 海上規制情報	該当しないしない
国内規制 陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	船舶安全法の規制に従う。
航空規制情報	航空法の規制に従う。
特別安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
15. 適用法令	
労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)96 塩化アンモニウム
PRTR	非該当
毒劇物	非該当
16. その他の情報	
参考文献	各データ毎に記載した。